

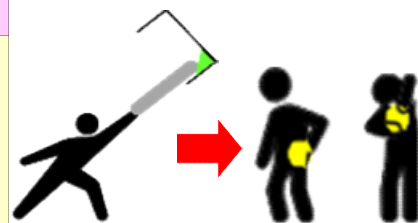
異常な状態に気づいていますか？

作業中に異常が起こった時は、『(作業を)止める』『(管理者)呼ぶ』『(指示を)待つ』が基本とされています。三原則を意識して行動するためには、異常な状態を知る（気づく）ことが前提です。今号では異常な状態であることに気づかず、自己判断で対応した結果、負傷に至った事例を紹介します。

● 自己判断による負傷事例

事例1. 必要以上に腕を伸ばし、右側背中を痛めて腰痛

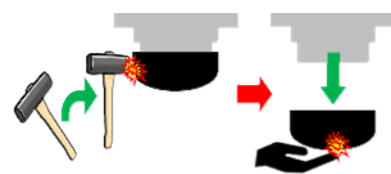
発生状況	①昇降機で上まで運ばれた後、カゴを傾けてカット野菜を排出。残った野菜は所定の棒で取り出す。 ②カゴの傾きが従来より浅く、カゴ内の残りが多かった。 ③棒で残った野菜を取り出そうと右腕を伸ばし、負傷。
自己判断での対応	右腕を必要以上に伸ばし、 自分で 野菜を取り出そうとした。
本来の対応	カゴ内の残りがいつもより多い場合は、 管理者を呼ぶ 。



右側背中痛み発症、腰痛

事例2. 製品が落下し、左手中指を骨折

発生状況	①機械使用時、製品が機械から外れなくなった。 ②製品を左手で支えながらハンマーで製品を叩いた。 ③製品が落下した時に左手中指が挟まれ、負傷。
自己判断での対応	製品をハンマーで叩いて、 自分で 取り外そうとした。
本来の対応	管理者を呼び 、取り外しの対応をしてもらう。



左手中指を骨折

各事例でどのような異常が起こっていたか、下の異常事例を元に考えてみましょう。

● 6つの視点から見る異常事例

①機械の異常	<input type="checkbox"/> 急に動きが止まる <input type="checkbox"/> 動きが遅い（速い） <input type="checkbox"/> 部品が欠けている <input type="checkbox"/> 異音聞こえる
②置場の異常	<input type="checkbox"/> 知らない物が置かれている <input type="checkbox"/> 足元が滑りやすくなっている <input type="checkbox"/> 床や表示が剥がれている
③部材の異常	<input type="checkbox"/> 外観全体（大きさや表面など）が異なる <input type="checkbox"/> 固い（柔らかい） <input type="checkbox"/> 重い（軽い）
④環境の異常	<input type="checkbox"/> 異臭がする <input type="checkbox"/> 照明が暗い <input type="checkbox"/> 室内が著しく暑い（寒い）
⑤身体の異常	<input type="checkbox"/> 必要以上に腕や足を伸ばす <input type="checkbox"/> 腰や手足に痛みが起こる <input type="checkbox"/> 発熱、目まい、吐き気がある
⑥方法の異常	<input type="checkbox"/> 経験やカンに頼って作業する <input type="checkbox"/> 手順を省略（変更）している <input type="checkbox"/> 事前確認をしない

発生状況と表から**事例1は身体の異常**、**事例2は方法の異常**に当てはまります。異常は不定期に起こるため気づかないことが多く、自己判断で何とかしようとする、大きなケガやトラブルの原因になります。トラブルを解決するためには異常な状況を知り、『止める』『呼ぶ』『待つ』行動も併せることが必要です。

自身の職場に当てはめ、異常がないか確認してみましょう！